

合唱コンクール講評

10月21日（土）は、王梨音祭でした。合唱コンクールでは、審査員の滝沢美紀子先生から、次のような講評をいただきました。

みなさん、こんにちは。すばらしいですね。とてもさわやかな今日のあいさつをいただいて、最初からすばらしい学校だなと思って、合唱コンクールを聞かせていただきました。

本当に、みなさん、歌い切って、すがすがしい気持ちでいると思うんですけども、おそらく、会場にいた保護者の方も、もちろん先生方も含めて、非常にもう心あられるすばらしい時間となりました。

数年ぶりの合唱コンクール、数年ぶりの文化祭ということで、みなさんも伝統というものは、どういうものだったんだろうということがわからないまま、手探りで今日の日を迎えた人たちが多かったんじゃないかと思います。本当に、やっこの日が来たなと思えるようなすばらしい文化祭の幕開けだったんじゃないかなと思います。1年生、2年生、3年生、もちろんそれぞれの学年にふさわしい発声と歌声が非常に響き渡ってきました。それぞれについてお話させていただきます。

まず、1年生のみなさん、初めての3部合唱、お疲れ様でした。いかがでしたか。こういう形で合唱というものがあるんだということをまず知る大事な1年目だったと思います。緊張した人もたくさんいたと思います。やはり、歌は誰かに聞かせて初めてその価値がさらに上がると思います。

みなさんもいろんな歌を口ずさむことがあると思うんですけども、そういったものが人にどういうふうに伝わるのか、相手にどう伝わるのかな、そのためにはどういうふうに表現したらいいのかな、とてもいい機会じゃなかったかなと思います。各クラスとも、きちっとソプラノ、アルト、それぞれのパートをきちっと音程もとられてすばらしい合唱に仕上がっていました。ありがとうございました。

2年生になって、もちろん変声期を迎えて、だいぶ声も安定してきているということもあるんですけども、格段に合唱らしくなってきましたね。それは、1年生のみなさん、来年はきっと必ずそうなりますから、目標にしてもらいたいと思います。

2年生は歌声に加えて、合唱の厚みというかスケールが非常に大きくなりました。指揮者も伴奏者も、本当にこの曲をどの部分をどう歌うか、どう表現するかということが、ちゃんと指揮の中に表れてきていたと思います。特に、たいていの学校では、3年生が歌っているような曲も選曲されています。ということは、非常にレベルの高い合唱、質の高い合唱を目指して日々がんばってきたんだなということを感じました。

みなさん、お互いに自分のクラスのことしかわからないと思うんですけども、本当に3年生と思えるぐらいの声質とすばらしい響きだったと思います。本当にありがとうございました。

（次号に続く）